

# 一 戦国時代・豊臣政権期

## 一 小山高朝書状（『早稲田大学白川文書』）

小山高朝、南奥の白川義綱に、佐竹・小田・宇都宮氏が那須政資・高資父子の抗争に際し、政資と結び、高資の拠る烏山城の近辺まで攻めたが、那須氏の屋裏が高資をもり立てているので堅固に持ちこたえている旨報じる。

其以往通途不自由（那須）仁附而、不能音問候、素意之外候、抑佐竹・小田・宇都宮被談政資、為引汲去月廿一出陣、至于近日者烏山甚近辺へ被押詰候、雖然那須屋裏過半高資相守候故、追日堅固之由其聞候、然者別而被相談候条、遠近無其隠候、此砌岩城有調談、被披本意候様、被取成候者可然候、高資へ一旦申合候上、吉凶共彼進退可為同前候、政勝（結城）へも始終之儀、手堅申閉目候、皆川両人事者不申及候、然而去十八日結城為後詰、宮領蓼沼小屋其外在々所々被打散候、其已後上三川（江）数ケ度被及行候、自当口も去十四宮中・宿際・贄木盡打散候、宇都宮成生城計候上、從其口之御行半延候者、千言万句も不可有其曲候、毎事期後音候、恐々謹言、

（天文八年）  
十月十八日

（義綱）  
白川殿

（小山）  
高朝（花押）

## 【読み下し文】

それ以往通途不自由について、音問能わず候き。素意の外に候。抑佐竹・小田・宇都宮政資に談ぜられ、引汲として去る月二十一出陣す。近日に至りては烏山甚だ近辺へ押し詰められ候き。然りといえども、那須の屋裏過半高資相守り候故、近日堅固の由其の聞え候き。然らば別して相談せられ候条、遠近其の隠れなく候。この砌岩城と調談ありて、本意を披かれ候様、取り成され候わば然るべく候。高資へ一旦申し合わせ候上は、吉凶共彼の進退と同前たるべく候。政勝へも始終の儀、手堅く閉目申し候。皆川両人の事は申すに及ばず候。しこうして去る十八日結城より後詰として、宮領蓼沼小屋其の外在々所々打ち散らされ候き。其れ已後上三川へ数ケ度行に及ばれ候き。当口よりも去る十四宮中・宿際・贄木盡く打ち散らし候き。宇都宮を生城計に成し候上は、其の口より御行半ば延べ候わば、千言万句も其の曲あるべからず候。毎事後音を期し候。恐々謹言。